

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	調布市子ども発達センター		
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日		～ 令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	31
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	49 (回答者数)	36
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに合わせた関わり	<ul style="list-style-type: none"> 職員数が基準より多く配置されており、子ども一人ひとりの思いを大切にしている配慮をしている。 様々な職員から見た子どもの姿をチームで共有し、アイデアを出し合いながら療育活動を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が「子どもと遊ぶ」ということを理解し、目の前の子どもに合わせて実践していくことができるよう、研修等を通し意識を高める。 アセスメント力を高める チームで活動のねらいを共有する
2	インクルーシブ保育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はあゆみに保育園の子どもたちが来る形での交流保育を実施し、子どもたちの関わりが日常生活の中でできるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> あゆみ、保育園相互の職員のスキル向上として、互いに意見を交換し合い学びを深めていく。 実践報告を地域に向けて実施する。
3	家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 家族の参加できる行事や面談の機会、また日頃からの保護者とのやりとりを大切にしている。 今年度から延長支援を実施し、保護者のニーズに応えている。緊急一時養護事業等も継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> きょうだい児がいるご家庭も多いため、療育中の保育や行事への参加などでの支援を検討し、家族支援をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	卒園後や退園後に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> 職員数が多いことでの手厚さはあるが、卒園後への不安を保護者が感じることがある 保育園、幼稚園への移行に保護者の方が悩みを持つことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが安心して過ごせる環境を大切にしつつ、主体的に行動する力を育めるよう、関わり方を意識して行う。 移行先への丁寧な引継ぎを行う
2	職員間の連携の取り方	<ul style="list-style-type: none"> 様々な勤務形態がある職員体制かつ、毎日登園する子どもの変化や状況にすぐに対応していることもあり、最新の状況が全員で把握できていないと感じられる要因がある 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティング開催時間や、話し合いの持ち方の工夫を行う。ミーティングに出られない職員は、記録に目を通すなど、自分から情報を取りに行く工夫も行う。 感じた不安や違和感がそのままにならないように、言葉にして共有していける環境をつくる。
3	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤職員の人数が多数を占める職員構成ではあるが、個人個人の目標を明確化したり達成状況を確認する機会がない 	<ul style="list-style-type: none"> 園長、副園長との面談の機会を作り、一人ひとりの育成について本人の目標をもとに話し合う。全ての職員が、自身の成長を実感できるようにしていく。 マニュアルの活用をしていく。